

〈口頭発表〉

Bスポット療法を4年間毎日続けました 人間ドックのデータから白血球の分画を追ってみました

齊間 治夫 Haruo SAIMA

戸田公園齊間歯科医院 〒335-0023 埼玉県戸田市本町4-11-19 パールステーションビル201

【はじめに】

スカイプ症例検討会で免疫の話になるとBスポット療法と白血球の分画が話題に上る事があります。

今回私自身が被験者となりBスポット療法を4年間毎日休みなく続けました。年に一度受けていた人間ドックの白血球の分画のデータの推移をご覧頂きたいと思います。

【Bスポット療法とは】

東京医科歯科大学耳鼻咽喉科教授堀口申作先生や大阪医科大学耳鼻咽喉科教授山崎春三先生らが研究された治療法で上咽頭に塩化亜鉛を塗布する治療法です。綿棒を使ったB-Spot洗浄でBスポットのBは鼻咽腔の「び」です。

宮城県仙台市で医療法人モクシン（木を見て森も見る医療の実践）堀田修クリニックをご開業されている堀田修先生の著書に詳しく解説されています。堀田先生には以前この学会でご講演頂いております。

使用するの以下のものです。

- ・滅菌綿棒 巻綿直径3.0mm 長さ約14.5cm
- ・0.5% 塩化亜鉛

綿棒はamazonや楽天の通販サイトで購入できます。

塩化亜鉛は市販されていません。堀田クリニックで診察を受けるとクリニックから購入できるようになります。冷蔵庫に保存した方が良いです。



通販で購入する綿棒です



堀田クリニックで扱っている綿棒です。
オオサキの綿棒より細いので片方の鼻で2本使用し自動車のワイパーのように使用します。



上がオオサキで下がメンティップ



0.5% 塩化亜鉛と滅菌綿棒

初めはしみて痛いです



【白血球の中のリンパ球と顆粒球のバランスの理想】

新潟大学の安保徹先生の著書に詳しく出ています。

顆粒球（好中球+好酸球+好塩基球） 54～60%

リンパ球 35～41%

マクロファージ 5%

顆粒球が多いと交感神経優位リンパ球が多いと副交感神経優位

		2018.7.29	2018.8.12	2018.8.26	2018.9.9	2018.9.23	2018.9.27
白血球	1200*1000/L	4600	5800	4800	4700	4600	5000
好中球	45.8*100%	46.6	46.6	48.2	45.4	45.3	42
好酸球	2.0*100%	2.8	1.7	4	2.6	3.5	6
好塩基球	0.0*100%	0.6	0.7	0.4	0.4	0.9	1
リンパ球	3.0*100%	3.4	4.8	3.1	4.3	4.4	3.4
リンパ球	30.8*100%	44.6	48.4	42.3	47.1	45.9	49.8

人間ドックのデータ

- 顆粒球の推移 (54～60%)

50 46.8 52.6 48.4 49.7 49

- リンパ球の推移 (35～41%)

44.6 48.4 42.3 47.1 45.9 45.6

【宅重先生のコメントです】

はじめからリンパ球は44.6%と高いので45.6%になって、こんなに高くなりましたとは言えないと思います。

好中球が減ったとは言えるかと思いますが、Bスポット療法をやる前から副交感神経優位だったのでしょか！

その為に、血圧測定値の経緯、体温の経緯、を検証する必要があります。

交感神経優位になると、全身状態の中では睡眠障害、便秘が典型的なので調べてみてください。学会発表の視点としては、とても良いと思います。

【私の感想】

血圧、体温とも大きな変動はありません。

睡眠障害 便秘の自覚症状はありません。

ただBスポット療法を始めてから20年来悩んでいた花粉症の症状が軽減しました。

スギとヒノキの花粉に反応するので毎年1月から6月の梅雨入りまで抗アレルギー薬の内服をしていました。全く症状がなくなった訳ではありませんが今では内服しないで済んでいます。

皆さんも人間ドックを受けられていると思います。試しに顆粒球とリンパ球の割合をそれぞれ計算してみると良いと思います。

【参考文献】

- 1) 堀田修 病気が治る鼻うがい健康法
角川マガジズ
- 2) 安保徹 安保徹のやさしい解体新書
実業之日本社